

南越農林だより

HELLO!
はじめ
まして

新規就農者紹介



南越前町東谷 高嶋 克弥さん

「うまい米が作りたい!!」



昨年の4月に奈良県から福井県に来て農業を始めました。南越前町清水の高橋正之さんのところでお世話になっています。研修期間が終了し、現在は高橋さんの後継者となるべく、一生懸命おいしい米づくりに励んでいます。2年目となる今年の米づくりは、機械作業も少しは上達したように思いますが、ちょっとしたコツをつかむにはまだまだいろんな経験が必要です。

今年生まれた愛娘においしいお米をたべさせるためにも、もっともっと勉強しながら稲と向き合っていきたいです。

これからの農業をめざして!



～農事組合法人「越前国中」の紹介～

「ごぼう講」で有名な越前市国中（旧今立町）地区では、今年4月、集落内農家と連携した農事組合法人「越前国中」を設立しました。現在、主に水稻直播や転作作業の受託および水稻・大麦・大豆栽培を行っています。5年後には近隣集落からの受託も含めて50haの経営規模を目指しています。

今後、法人としてエコファーマーを取得し、農薬や化学肥料の使用をできるだけ少なくした栽培方法も実践していく計画です。



大豆ほ場で話し合う「越前国中」の皆さんと田中普及指導員

南越農林総合事務所

越前市上太田町41-5 TEL (0778) 23-4545

URL <http://info.pref.fukui.jp/nourin/sougou/nanetsu/>

E-mail nan-noso@pref.fukui.lg.jp



健康長寿な福井です。

平成18年9月15日

No.20



もり 間伐した森林でのフォーラム&コンサート



7月23日（日）、越前市二階堂町の森の中で、越前市の市民団体「自然と暮らし隊」が主催したイベント「森のフォーラム&コンサート」が開催され、県内外から約500人が訪れました。

会場の設営には、自然と暮らし隊の隊員や武生工業高校の生徒たちが、放置されたスギ林の間伐し、その間伐材を利用して、会場ステージの支えや会場内通路の階段を制作しました。

フォーラムでは、「これからの参勤交代」と題し、医学博士であり東京大学名誉教授の養老孟司さん、シンガーソングライターの白井貴子さん、西川一誠知事、奈良俊幸越前市長がパネリストとなり、コーディネーターの仁愛大学小林逸雄助教授のもと討議が進められ、“自然との触れ合いにより生き方を変える時代”など貴重な意見が多くでました。

また、地元音楽グループや白井貴子さんのミニライブでは、奏でられる歌声や演奏が手拍子と重なり、森の中でしか味わえない独特の響きとなりました。

会場を訪れた方々は、整備された森に癒され、すがすがしい表情を浮かべており、イベントは大成功のうち終わることができました。

～森のフォーラム「これからの参勤交代」～



7月23日越前市三階堂町
「森のフォーラム&コンサート」にて

♪白井貴子さんのミニライブ♪



7月23日越前市三階堂町
「森のフォーラム&コンサート」にて



今庄中学校の学校林整備



8月20日（日）、今庄中学校3年生（42人）と保護者たち総勢100人が、今庄中学校学校林の歩道整備を行いました。

これは、県産スギ間伐材の有効利用と、森林と人とのかわり方について考えるきっかけになる森林体験学習として行ったもので、野崎良浩県指導林業士の指導のもと、生徒たちが、急な山道に唐鋸とかけやを使って、「エィヤー」の力強いかけ声と共に汗を流しながら作業し、50組の木製階段を設置しました。その後、できた階段を登って学校林を散策しながら森林浴を楽しみました。



階段づくり



できた階段

お知らせ コーナー

正しい表示で、消費者の信頼確保と地産地消のPRを

販売される食品（農産物、米、加工品）には、正しい食品表示が義務づけられています。

（JAS法＝農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律）

その中で、**農産物は、名称と原産地を表示しなければいけません。**

農業者が直売所に品物を出す場合にも表示義務があり、罰則規定もありますので、正しく表示しましょう。

農産物 野菜・果物・豆類・雑穀類等（きのこ・山菜類・タケノコを含む）

※ 乾燥・加熱処理（水煮等）・皮むきなど手を加えた農産物、粉にした穀類は加工食品の表示が必要です。

【表示事項】 名 称…一般的な名称 トマト、キャベツなど

原産地…都道府県名（市町村名、その他一般に知られている地名でも可）

（注意！「地場産」「地元産」は×）

【表示場所】 容器もしくは包装の見やすい箇所、または商品に近接した場所、その他見やすい場所

例1 見やすい場所に名称と原産地を一括表示



例2 包装フィルム、ラベルに表示



例3

名称は個別に表示＋原産地は店内一括表示

キュウリ

この直売所の野菜はすべて
南越前町〇〇地区でとれた
ものです

※ 米穀（玄米、精米）、加工品は別途規定があります。

※ 有機栽培、有機農産物などの表示は、JAS法にもとづく認定を受けた農産物およびその加工品のみ表示できます。

※ 無農薬栽培、減化学肥料栽培などの表示はできません。



有機 JAS マーク

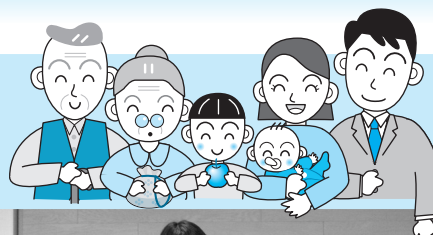
広げよう「食育」の輪

県では、食育ボランティアを募集・登録して、学校や地域において、農業体験や料理体験などの食育活動に協力・支援していただいています。

7月20日(木)には、NOSAI福井で、食育ボランティアの情報交換会を開催しました。

その中では、「箸づかいや食事の礼儀作法など、食文化・日本文化の伝承が大切である」との意見も出され、共感を得ました。

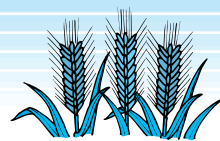
食育ボランティアの方に講習をお願いしたい方は、各市町の農政主務課・教育委員会、公民館、公立の学校等にお問い合わせください。



子供向け食育エプロンを使った交換会の様子

来年こそ大麦をたくさんとろう!!

— 18年の麦作から見てきた問題点 —



南越管内では大麦の生育モデルとして、下表のような目標値を定めています。

しかし、本年産の大麦は、越冬前茎数および穂数が少なく、収量がとれませんでした。

生育目標値と平成18年産大麦の調査結果

		越冬前茎数 (本/㎡)	穂数 (本/㎡)	収量 (kg/10a)	千粒重 (g)	精麦率 (%)
目標値		600	380	350	35.0	75.0
平成18年産	最小	207	219	183	37.4	72.7
	平均	305	341	305	38.8	82.6
	最大	460	672	512	40.0	89.7

(南越管内9カ所の調査結果)

このため、以下のポイントをおさえ、越冬前茎数を確保しましょう。

1 排水対策の徹底

水稻収穫後、直ちに水田の畦際に排水溝を設置し、**基幹排水と直結**して、水田の乾燥を少しでもすすめ、種まきに適した条件を作りましょう。あんきよ暗渠が効いているところでは、あんきよ暗渠パイプの上に排水穴を掘るのも有効です。

2 土壌改良資材の散布

酸性の土壌では、根の発育が不良となり茎数の確保に影響します。このため、土壌改良資材（マグエース等）を必ず散布してください。

3 種まきは、適期に適量を

年内の生育過剰を抑えるため、種まきは10月10～20日（中山間地10月1～15日）とし、量は条播で6 kg/10aとします。



通常の排水口の下を掘って、水田に掘った排水溝を基幹排水につないだ例

予告 環境保全型稲作および関連農業機械現地研修会を開催します。

来年度から本格的に導入される“農地・水・環境保全向上対策”。どうやって取り組もうかとお悩みの皆様、環境にやさしい稲作に興味のある方は、ぜひ御来聴ください。全国でも優れた取組事例や難解な制度の概要を分かりやすく、お話しします。また、これらに関連した農業機械の展示・実演も行います。参加は無料です。

- 日時 **10月12日（木） 午後1時から**
- 場所 **鯖江市上河端町 JAたんなん本店**

「資源保全モデル地区サミット」開催される

～自然を見つめた地域づくりをめざして～

8月11日、越前市安養寺町にある福井県農業研修所で、県内の農業集落代表者など約120人が参加し、「自然を見つめた地域づくり」をテーマに、「資源保全モデル地区サミット」が開催されました。

これは、平成19年度より導入される「農地・水・環境保全向上対策」の県民への啓発・普及、情報発信を図るため、希少植物であるさぎ草の栽培等を通じた地域づくりに取り組んでいる安養寺町での活動事例紹介等を行ったもので、地元安養寺地区緑を守る会の協力により、大変有意義な研修会となりました。

研修会では、安養寺地区緑を守る会代表上野 博さんの事例報告や、活動状況のパネル展示、さぎ草の栽培状況、遊歩道・ビオトープなどの現地研修が開催され、参加者らは安養寺町の豊かな自然や地域ぐるみの資源保全活動に興味深く触れていました。

このサミットでは、農業者だけでなく、地域住民が力を合わせ資源保全活動をしていくことの大切さを感じることができました。



サミット会場（農業研修所）



さぎ草展（活動組織のパネル展示）

中山間地域総合整備事業（池田郷地区）が着工されました

池田町では、農業を基幹産業として、地域資源循環型農業の推進や「こっぴい屋」を通じた農産物のブランド化を目指していますが、近年は過疎化・高齢化が進み、かつ農業生産基盤の老朽化が著しく、農地の流動化や担い手の確保が課題となっています。

このような中で、①調和とたくましさのある農林業 ②快適でふれあいのある町 ③多様な担い手の育成による池田町農林業システムの確立を目指して、中山間地域総合整備事業（一般型）池田郷地区を本年度より着工し、平成23年度完成を目標に順次整備していきます。

主な事業の内容

〔ほ場整備 1 団地 A = 9.3 ha、農業用排水施設整備 12 路線 L = 12,600 m〕
〔農業集落排水整備 1 集落 L = 200 m、なだれ防止柵 L = 100 m〕



ほ場の大区画化を待つ水田（中地区）



「おかあさん、きょうはやさしい いっぱいたべたよ!」



8月6日(日)、南越前町の「リトリートたくら」を中心に「食と農の交流会」を開催しました。

このイベントは、南越農林総合事務所が消費者に食の大切さや地場農産物をより身近に感じてもらうと、「旬菜.com ねっと」と共催しました。

当日は、農業者の皆さんと親子連れの消費者合わせて250名余りの方々の参加があり、スイートコーンやバレイショの収穫体験、さらには地場産の食材を使ったバーベキューなどを通じて、交流が行われました。



参加者からは

「生産者の方の大変さを知るとともに、いつもいただいている野菜がとても身近に感じられました」
「普段野菜を食べない子供が、収穫体験をすることでたくさん食べてくれました」
「地元の野菜にふれられる時間が、子供にとってもよかった」

などの声が聞かれました。



田んぼ塾 開講される

集落組織のオペレーターや団塊の世代の方々を中心に稲作の基礎技術を学んでもらおうと、7月2日から毎週日曜日に、「南越地区ふくい田んぼ塾」を開講。28名の方々が受講されています。

穂肥を施用したことのある受講生も実際に稲を計測し、幼穂の長さや草丈、葉色、穂数などを考慮した判断方法は初めてのようで、たいへん興味深そうに聞いていました。

今後は土づくりや肥料・農薬を減らした栽培方法、水稻育苗の基礎など計6回の研修が来年の2月まで行われます。



班毎に行われた稲の計測で熱心に聞き入る受講生

将来の担い手をめざして

8月10日、青年農業者の現地研修会を開催しました。

当日は就農1年未満の青年農業者や研修生が参加し、各自の圃場や先輩農業者の圃場を見学しましたが、

初めて会った青年農業者も多く、たいへん賑やかな研修会となりました。

農業経営支援部では、これからも青年農業者の仲間づくりや個別指導の充実を図っていきますので、就農を希望される方は、農業経営支援部までいつでもご相談下さい。



鯖江市鳥羽町の山田さんから話を聞く青年農業者の皆さん